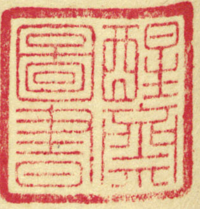
遺老物語



本佐録

此書ハ
家康公ノ御謀臣本多佐渡守殿作也
台徳院殿兼テ大ニ或時天下ノ治乱興亡ノ盛衰君ト為テ
万民ノ苦楽如何成所ヨリ起ルニヤト更ニ尋ネラル
事も やかて御尋ノ時年来思ケルモノヽ昼夜[illegible]仕度
ノ人ニ尋問又世上ノ人ニ出会ケレ共しかして一向
其理を知者無之 御返答[illegible]候処ニ [illegible]
是ニ付 [illegible]御尋ノ御返答ハやすからすし 佐渡
守[illegible]して[illegible] 上様ノ御疑ヲ晴サレ[illegible]
[illegible]御秘蔵ノ折ヽ御披見有ヘキ為ニ此書ヲ作ル
本多佐渡守殿次男阿波守殿 松平加賀守殿御家老ニ[illegible]





佐渡守ありし　阿波守殿　家康公御取立　七十有余　後号正信
また京二条下ル　材木町　東側に隠遁して右石之附寺ノ友
三宅寺賀　法名寄雲　御心友達なれとも　折に触れ　與子余して
此書を編述ありし　時寺賀へ請て之趣述申置子
其孝伯へと送りて　今に流布す　而して申し仍之様ありて
云う余ありしに　佐渡守　在佐渡守御用勤之由
佐渡守殿子息両人あり　嫡子上野介　次男ハ阿波守ある
叙爵介ハ　佐渡守内儀之子ニ掟之　此書を本佐録と号する
ことは　佐渡寺賀名付られたり　歌出し時ハ右記宅之或
時或人之云　佐渡守強肩小久安楽人也　家康公之御覚之
ありし故　暮り給ひて　候こと
家康公御家老職之御役勤あり

本佐録　天下国家を治る心持之次第

一　天道を知る事

一　身を正敷する事

　附り　家業を行ひ国を治る之要を家康に知る事

一　諸士之善悪を知る事

一　国之郡主之心を知る事

一　家を可続子を撰ひ并補佐之人并政務役人撰ひ事

一　百姓仕置之事

一　異国并日本之事

一　天道之事

天道とハ神にもあらす佛にもあらす天地の間にある
しゆにして天心とて万物に充満してあまねき
所なし譬へハ人の心ハ目にもみへすして一身にゆきわたる
しゆとなり天下国家を治むるを心とし　わたくしなし
天道ハむかしより天地の間大小万物共に万物の長
たるをもって天下を持人を天子といふ天下を
治る者ハ器量にあらすんハ人を撰ひて天道より
日本にはかられし定りたる天道の理を日本之おきて
いつはりも人の心をあらはしてまことにせんとなす神道ハ天道
之道を天道に引合　釈迦達磨の教へを兼合
極意とし　又日本の儒者道をおしへるとして其意ハ

様ニ一つとなりて終に天道の理に明かなりけりして枝
葉を送り唐の治を聞 太刀を不用して四百余州を
治て代々子孫に伝へたる事多し日本にも往代の时
より代々天下を治る子孫に伝へたまわりぬるに至る天
下治りけり一代二代まても富貴子孫に富貴文に明らかなりけり
唐人もの知利をいふ人日本にはまり此ニ富を開らかれ
唐人會ていふには唐と日本とを人々なり整りぬらし
天道を知りけりして心を学し親学してこそ天下
治りけり天道を知りて書を治る時は心学せす
親学せすして自然に天下治る子孫栄ふるなり
と伝へて此て唐の理を知りなり然も文を以てしたに
ハなりけり恐れかましも只偽の腹らされと悪の始ぞかなり

かくし唐にても学文上達の人さへ天道の理明らかなり
難きと揚也 大学書付は治る事を説くといへとも知れぬ一段
なり然して天道の理なり 又種々はいふまてもなし
身を正しふするなり

一 天下持人は身を正しくし心を深くして天下萬民
に万人安穏の政を行ふ時は 天道に叶ふに依て利欲に
明らかなり 身を治る様に根元を合する時は天
下に天下を治て子孫長く忘し 堯舜天下を
譲られし時に語曰 咨爾舜 天之暦数在爾躬 允執
其中 四海困窮 天禄永終 此語は 天地開てより
以来 堯舜に始る 聖人あるし 又天下を譲
る 大子の如し 代々に聖人 此語を以天下を治

儒の道ハ此儒の道ハ天なりけり天子ハ天下をとる儒道
道を天理をいはひ天下之万民を安楽ニ治へし天下を
万民困窮し甚く法如来一旦行ふ所を天下をとり
しかるに此法能く行ハ如何なる人を聖人とあがめ
執中々中ヲ此一ヲ是ふ一語味深くして皇国ニ疑し
日本之皆義理露顕隠きとなり四民全部を治ると
此中之一字なり則天理なり日本ハ仏法流行する
以前神武帝より尭舜之掟をやうて天下を治し
時ニ二千年と及ぶ代々天下を子孫へ傳へなり今は
仏法を尊崇し居ル故ニ両令非なる中ニ否ニ日本ハ
皆治乱あり居ルニ天に一より能く仏法
両全するものに依て道理なく度々天下を失ひなり

五百年以来按ずるに是ハ宗旨を立てなりして存天下
を失ひ来れり唐土天子たる人尭舜之道を行ひ天下
治る時ハ久安ならずされハ文武王荘子仏法経論
作して尭舜之道を守り給ハ以之しかるに治して
其ハ文王ハ孫子六韜三略の法を以天下を
治るハ人はれしたし是又久しかれ治して宗
或ハ皆ニ治なりしつヽハ今戦乱止事なし依て今
唐ニ尭舜の道の外ニ諸法を用ひ久しく諸法を
代々子孫と傳へなり唐と日本とを比すれ
治る時ハ久安なり失ふ時ハ乱るゝ国家
衰微なり百姓ハ天下之根元なり衣食ニ尊
困窮ひゆるなれニ難儀し侍る共一命ニ替る

日本にても是を唱へ夫より行以来二十余年に及其内ハ
天下度々大乱なれハ則大将ハ軍に勝ハ諸侍も人を殺しかゝ
すり因持て討死をする様に侍を以治かふたりし威勢を以
佩刀顔の立つ様にと治る世の時も其根皆陸に徹して
打をとらるゝ一頭をも捨法度を犯し場て在軍に
かわる時も又是を当世と顔ように其さまさまの
味方なり猶ふ来る時も女を武といふ例古侍のハ
自然おもに見の時に一心を為節をなす様に侍を以
治かふたりしつねを捨て活きするを又一命を捨て
大節をするを忠臣と人の心にはなり則ち者を二心
なく思ひ付けまなんて畢に治さりしんやと思
主なる治る英雄此心をえならざる事かなふ

人心かはりて我昔の心思を顧みねるの故永年の
恐をなるを知もかあとて天下に様々宮さ人
安穏にする事と忘れ其侍と心かは武を引知を好
何とひとつ花を去て其ゝ式ハ私宅式を好色
碁双六酒宴猪楽等に心を移して天下国家の事を
気ひたしくて我て立ちかへなしとさへなし又学文ハ
聖人の天下を治る治道なり政道の時ハ手ね
るゝと見え又文にて関へし取るも心を用て
治ゝ我を能はて一日も政に怠る時も天命に背
唯理を一身の事とし弓馬稽古清の類ハ一人十
欲するもの、つゝしなし天下国家を主人ハ定りて
心を入るへし古人聖人ハ一夜ねむらずして名にハ

万代に残り子孫長久なり　文智恵を不磨して
明らかなれは其磨かざりけり　堯は一分金剛の天子に
ありて丹身といふべけれ　者あれども我かれ智
恵なし　かりて天下を不譲して歴山に田を
耕て舜を去　人を賢人なりと聞て天下を
譲りてけり　智恵も広大なりと聖人といふ天地
開けしより今にいたるまで　堯舜及智恵大なる人なし
之舜に智恵に事積は中庸に舜好問而察邇
言と書けんは我大広なる智恵をは智恵と号
して諸人の微少者とも天下に為となすへき
ことを聞は又目前に浅きことを聞せて細説
人乃善言の中にて稀なる善言を舜と大なる

智恵ここに察して　物これを家智恵にして天下を
おさめにけり　是聖人の智恵の磨き様なり　日本
は浅くして識者も物を聞ことをせすなりぬは
大かた智恵浅く西洋なる人を撰て本しの
事ことを人くにけても学しし　役合して去るなり
夜更夜ひとを　一孫文流して毎云の是さることの
書て以上ことなり　善文人相して尤人よりも人に学
何まれそれも其中に誰ことを其加へ我智恵廣して
用ゆへし　物のおこしかたし　又是は広き智恵用
加よして　取なりし聖人も其義なるべし　只金剛
さく　智恵は是れは善人をもって済し悠や日本
小国なれとも安く治まるへし　一家秋の　智恵を

一
自慢しては国家を治るまじきものかは
附桀紂の行ひ国政を乱し奢侈に誇る事
国乱天下乱れ兵乱すなはち時に或ハ彗星或ハ大地
震大火事大洪水飢饉行ハ御源流として
流れ民下多く死する事例しも天子の知ろしめす
依て人民苦を天子に通じ天下国家をさとす事を
天下の行ひ若さあしき所より起し時を移さず天子
心を改め大臣老中の悪を正し文武諸役目
を固くなさハ万民安穏の政を行ふ時は災ハ
行なく消る故に昔殷の湯王天下を治めし
時天久しく旱して万民困窮す湯王天子の位を
すべり湯の旅をぬける祈ひて加色は生ものをそ

一
志やひ森林野に出て六ヶ條を以て天子に祈て曰
我天子たり徳を以へ年貢を取て民より万の事をと
ならば一身に不祥あらば一民に御を失ハず一家を
全く欲を加へらる一門縁を不以政を不知一族をさ
人をあらずして是ゆえに民をさ家を汚し行ふへ
家を人に殺し万民安穏に相ひ治へしと祈りし
処にハ聖人の心天をや通じけん其国は雨降
事たる大雨降りけり聖人に祈り御気成り此病を
一毛の智なき王ハ老子の政を行して太子をさ文
仏法を信じ護摩を焼き讀て皆まへす然も身をさ
為にして出る事なり不信仏心よりも表ひもうを
但佳勢天照太神をも信ずるとし例天照やらかけに

なる事なれば今学文して何の用ひをなさんや
只々師匠の言葉にして西行なる人を恐らひて
四書五経通鑑史記漢書等の理非を知可能
今日なすとて理を知る志ある人なし師匠の教ふ
随て学文をして何の無益なる人多くあるべし
師匠の無益とよってなり師匠と大臣を撰ぶ天下の
大事なり古今源氏伊勢物語等にも向上ある
なりとされ本国乃政の為にもなりけり御心に道の
婦女の便りとして流すんを称すなり皆人に
通ひて無益天下治むに仍に笑ひくるを知るべし

諸侍乃吾心を知る事

一　君乃為に源く志を只に節を尽て一命を捨つべし

只々その折に臨ミて天下政乃要をなし只て時に
しつて事に詳する事を得るに幼少の時より
存ずし行て修める事なきものはいかに文君の為に諫を
しても身をたえんとなみにの縁を求めて上の
事に随ひ入道心に入るより身を尽して
いかに身を捨んや只その君に任み心に合せて
随んで君の恨みをいかにする事や忠節を只為君
君の為しきは止んやする者必君の心に協ふ事
思ふ君の心に背くをこそ人々に伝ふ為の
忠心のものは君捨て身を尽す事一二心
あるものなり我理を知らぬ所をたえんや只に
その士君の大事に及びて身をたえんや只に事

てとうあやまちとおもひて怨んでさて又之を
大なる謀をなすものや明君なりといへども忠臣
佞人をよく知り難きや況や中智の人は其臣
様に見えて君の詞に従ひて善悪其のさかひ
知らざるのみにて忠人也君は君の為を思ひて
従ふことなりと悪人也しかして讒者のとゝのへる君
忠人君の傍に有時は悪人退くこともあらん
君は思ふまゝのことを以て乱るゝ者也これより
其人の心根を知るなり忠臣の人を撰て従へ
其臣参るところ大臣参るとも上下佞国の人参り
又臣とならんとして佞に従ひ為し又近臣として
不忠佞国の人なりしらがことよて又学ならしして悪

なりしと怨佞を言ひなし又知る悪人なられやも
参らする所を讒し忠ならん賢人なりかたき
のみにてありけるにしてものあり一言を以て君我
定むる事かなはず是賢人の人を撰む法なる也周の
文王天下を有つ時佞臣を去んずる所は不し
其時なる所を佞を兼ねる臣は九人なりとては又し其内
にして忠人あり其外皆佞臣なれば忠人之天下に満ちて
乱るまじ近臣二三人の間に佞り其人を撰みて君
其人の心ある所其人の時に賢人賢人自ら
進みて其人誰が知時は小人佞人自ら去むかなり
賢君賢臣よりて智者ならず豪傑なるもの
君が臣を賤くと好む時はてからと下民困窮して

天の育する人民をしいたけて其身必亡ひ賊害に天
下をおさへ伐害を免れん君も利を二つにする事ハ
有へからす古人より定めし所法也孟子曰利ハ義
礼の始也此故大学曰財聚則民散財散則民
聚るといへり財ハ心善のうつり月日緩なる時ハ
必貪欲又春夏秋冬も移り替り草木之花咲実を
むすふも天の自然之理也故に伐害を要とせんものハ
何の要人を治むる君子周急而不継富をはかれハ
其民困窮せぬやうにと其比天か自然に要と伐
害ハ財宝て鰥寡孤独貧窮の者とも引へし貧窮之
ものに賊害を行ふへからす此悪必子孫に報ふなり
文王政発するに施す事必此四つの者をえてなる

此四ハ民之天下を治民之所の事つとめハ鰥寡孤独の
四つの者に慈悲を加へ給ふ此慈悲必天の時にハ下達
天下を治め給ふ子孫に及ふを思ひて此所とんを生て
万人をきらふ事所安く又日本にも今において
君をすて自然に要所合理てむくる伐民の
栄花にほこり悪行を行ふへし或ハ飢饉の時に
人をあはれむへき者の事なり又近年のことなど長左衛門
時之金銀を借し人をころして家財を送るなき
よふなし又大の方はのかきるにつきしものあつかひ
まれのし又知る様ハ末代のことのあわれにたちもとくを
ましもあり或ひ時に先金銀を出さん商人
とんといへともかきしる此時に中に行ふへし

此我害をなさしむる事なれども世に此を知る人常に語りて
悟らしむる天理当然の中にある天下の源なるを
知らんとする者を見て道を行ふ欲情をとるものゝ為にとりてさふ
仰ぐとするものゝ是なりと見えたる事も邪欲なるを知るべし
無益にして深かるものゝ本心六根欲の一つなり生ずる
ものゝ故に此是を悟るものゝ天下の中の一つの是をなすこと
天下の何事かなす勤むるなり而して悪人を知りて近頃
までの悟りて近代名利をなす人を以て是を見るとも
此等の欲を捨りて人を導くのかし　内心は欲情
忽ちに遠ひ来るものも詞に明を以てせよ聖人を
尊ひ我が為にする所の君の本心をよく知るべし
為しそを述て也べし人をなをす邪欲情を

依て能人を見るべからず巧言令色の者に見ゆる事少
しとて詞を語ひ君の心に入る事を巧み表に見ゆる
気て権威をふるふものは浄からざる者なり大臣なり
君国の為に大臣を行ひ君の心根の誠を悪しみ変ずる
者は是を以て詩る事なく能く是を正して人を撰
ひ形悪なり唐にも日本にも近頃ゝ佞人君の心を
損さし天下を持ちて倒多し又論語に剛毅木訥近
仁とあり此心は詞をかざらず形をかざらずものを
聞くにも正直にして理の当りたる事を
言ふ者は只誠を以て実践なり又道理に従ひて
語るは恥じして安し悪る事を忘れて誠にそれを忠信
なる人は伍子胥屈原が類ひ是也日月と光りを

国して万代の太平のゝ年を以て治る人の負を知
事何れも用ひて其事一日の内ニ二五吉にて取
色ニ多の其形は三色者の形跡と遠ひかつニ負ハ
中知る人少なく知りて色しからを布色正しかうすして
何り形行する者有を役まとも智恵の眼めて見ハ見へ
まゐらめて
国を治める仁を知りて

一 国ニは横目を立ハし天下乱る因又逆すへきさのか
忠を立へき者乃根を探ひしら乙文を也
して尊知りて肝要なり国を安きに治めるハ
天子の天下を治る国しめ文万代安穏にして
下の万民ニ忠を尽しき国の治りよると云ハ

是百姓長く栄へし次ニ国ニ斎すして
父保を忍まし臣下ハ二心ある国ニ忠を思ひ国中ニ人民
子ハ親に孝を尽し夫婦兄弟和合して邪なる
政ニし国を正しく万民治りやすし
又国中人民を困窮せしめ脳して今銀代官を
役人の非を取を狭き要害を作りかたを好みて
公儀を恨みするハ是を取なりて逆をな
らさる君ハ後必反逆す色しやすく知る也
近臣やうら金を以て出家をたのみ横目を立て
之道義五常もなし其国に風俗を能すべし
其臣下ら是を以て一揆も二任も是を加へ吏役
仏を写せし行て在ニ行善ハ非を敢

急に気色を色し政事に断則必用文武宜子
父母親類なりとも用ゆへからす天下に於ゐ
先祖子孫に名を失ひ申や天下に大事是より智
恵の眼に於てすんは是を顕し能御政道に候を附く
能く結へし又横目に於ては智恵ありしものにあら
すんは治めかたかるへし邪なる横目は善悪を
無為にするに吟味せすとも善人を悪しくいつれも然
人を善人と聞せて善又人を失ふ事多し

一
武を繕ひ子孫相続并後見の人々なと役の人々撰
先祖の名を顕し子孫繁昌に天子を人然んに候
人に上中下の智恵あり上智は下愚は帰りして
大略中の智者は教様次第に上智とも下愚とも移る

とよりなり世を継者は庶子の内なりともに智恵を
能く見合して撰なり先細少に附より優に直人を
使我としては智恵ある人を政道にして慎み有ある
なりまことを知る者ともは政道にして智恵も尽さるの
おもりなりに捨る者を置へうしすして細かに
古今天下の治まり様の善悪又国家の善悪上中
下の人々に至る善悪又事の理非曲直又弓馬軍法
御法様様をし一芸とも教へすへし女離法ある
脇高以上したかわすの者は横目を以て糺さ
事をしるへす賢君とも心得は慎むをいふそのあれ
候とするとのも能く細かに人に門人様大事なり
家中の間に合よろしきに以て経済をしる者を人合さ

きれいミの心とあい成事ニ請人迄怪我を以家
悟房を以者を除く戒ヲ見へテ又猿楽諸所人
在の間の物ひとゝの六月此をのなハ人をとめ
かしおを立ん如計りを昼夜事として兄の好様
すすむのなり 上智の人ハ物ありさハ心ある様ニ
忠信しき工夫を以あしすゝ依て兄へすしてたる
さらく近所へあるたうしてし

附り後見に附る人の事

一 後見をいたすにて不得心國大名之内を縦横ひしてを思量
いあれとし人はしいよしみを除しすへき為又ハ人
のたんするためとなりても縁者として後見を致へし
又大名之内にも随分人ニ家之立る者は内怪我

者ノ又一族之内の継たるを見立て國を与へて後見を
定むへし其後見と立る者ハ時世移り替りて天下泰平と
皆欲となり大臣御前皆隠文するの時は為ニ心得し
其時ニかしこく心を致さ候君臣一族と隠を乍し
君ニ一族と討死をしともの之を横死し又候ハ其一
任侍共二智恵ある武勇なるもの人の知る程を
立る人家家ニ居て公界の人の知る時ニ何事をか
何となるとも合をなさんとせ致して相談りするとも
夜ニても心をよくもす事之内之者の仕置可致し仕る
見とおしよく其実の者の知る所にすそのなる者
始人の心を知り様なりとも家々只見して奥二
思心あるもの共二度三度にても心根知れぬ者く

無台ニ利發たることのはり候ハヾ重役ニ利發なるもの
あり讒義ニ利發なる者ハおそれも以ての外ニて天下國家を
治る是ニ利發成者あり然れ共何者の所ニ智恵あると
ことを知て智恵の高下を以て知識に治る智恵ハ
あるへからし人ハ利發なりて諸義ニ達し無台ニて
ものハ是智恵の者多し此間にして大なる智恵の
者なり歸く也吾きき人なり此所ニ猛心を附くへし
大工の木を生かす如くして智恵くにあてがい治かへも
る叶ふもの也又侍なるも頭を深くして君の大事ニ及
時こゝろをなす様ニ親ニ思し我が身を是非も忘る
て大息を治めてこそ人のゆるをこそ其の人ハ其人ハ
まことに也家の人ばかりが知て國新ニ横目を附て

能々有し又其ニ主人を吟味しいかなる人ぞ何ろけさを
てあらは小諸合せて智恵の程をも察して政國家を
見へて仕置をも治すべし一賢人を知じて佞人を退る
べし一忠節の心ある者を賞し罪ある者を罰すべし
一公事の理非を明らかにすべし一百姓を撫育すべし
一天下を治むて家督を譲すべし此たち條にて國を治る
なり又日本近代ニ侍ハ義理を知り候て治る事
大事ニて鎌倉の時ハ泰時ハ義時ハうたを救せ人情
あつくて恨ミ深け是申しも智恵ありてさせる事ハ
あるを将て諸文すると主人を主人の心てあり然るにしく
國ニ風俗を惑あすなし而も新十像て其國の風
俗を五年も七年もまゐらせてゆくりハ後見人を

然る處甚し又能人も大名ぬて大罪を犯すもの多し其の
政をも忘れ百姓をせたけ侍を不愛金銀財宝を集へ
淫楽耽の為の器を求めらしで栄華を極し奢を好み
立るらるゝなり政のあしき故に依て聖人も人の善悪ヲ
見るより一位二位をもぬかぬなり

百姓仕置之事

一 百姓ハ天下之根元なり是を治るに法有先第一人々の田地之境
目を能定め其上にて入用作食を積らせて其余を年
貢ニて取百姓ハ財の余らぬ様ニ不足の無様ニ治る事
道なり毎年立毛之上を以て納事古の聖人之法な
如此收る時ハ民ニ及服し又九月十月の間ニ國中
道橋を造営して往還のなやみなき様ニすへし

入用ハ其儀より枝折をも為し此外ニおゐても民をせふへき
又田地の作りきは其を先柄役の掛を百姓治めらし時ハ田ニ
肥するかなし田畑を返す事も中作如ニ依て损多なし
此事ニ國治かれ武士ハ天下國家の費ハ一俵二俵ニ迄す其上
民の根ニ天ニ通し聖天子一人の為にせすして天子ハ百姓を
安穏ニ治る役ニ天より定めらるゝて扨て家々の家絶ニ
つゝしかし奢りを極て天下ニ少りき人民なうして是れ故ニ
必其身亡古の聖人賢人も父母を不孝し倉ニ七珍を調
無二様令厳を不好ハ必ぬてして終天下の権貴ハ
我家の傍らぬゆに年なりけり親類妻子を治身を立て
先祖の功を空しく志て他を可代ニ継する事を恐て
是を悉し民を育ひ奢を止めて國家治る時ハ民の

百姓万人を撫育して武義を守り候事父母の如く
なましき子なれば其女が愛して七珠を網へ玉緒令散を
好みても天より罰を蒙りて子孫絶果る事も古への人
武を忘楽を耽楽となりては悪性を不知して下民
を轄まれ候へば以之ともがらすゆゑや下民に撥とせられ
天下を治めし文武を兼備へんとあらば英雄の心を兼て
又武を撫育して子孫にて天下を傳へんものなり夜に昼
すら保ち本音も不保者の経営繕ひに月日を移し
我好める心を移し文業の湯沐に耽る事を向上に
思ひ寄連綿をとらひたるに至りては侍の情けをも不知
万人餓死に及ぶとも不知之天下の其故を見ては天罰
当りて当る処を事あるとも天の知覆によりて大

悪人に有一代を亡ひ小悪人にては子孫亡ぶ盗人に往
計りを悪人といへる謂す万民を苦しむる者を大悪人といふ
孟子曰暴其民甚則身弑国亡不甚則身危国削と
て此に向く人ほ家は亡し今迄も水火に入ても必ず逃れ人
誠ろしき家や家に至る者を助けて今迄を守り後へ子孫は人の
損じなくて天下は我を不審成るとも代々離就を信ひ
し百姓は難事を離まして信を生むともして七代ケ今
ちくまの末としして英文文武の仰せられて家とす
君主をたるを備へんあれ天下泰平子孫に傳へる事
乱世たる時代を治むには先武を以て国を平げ後に文が
万民を撫育し自ら身をも兵を知て守る所の器を保ち
了明要之故に武と文は車の両輪の如くの互に

されは代々は治り難しとかや漢の代にも唐の世を継

天下を平らげすといへとも天子天道の道を継ぐと七代の

のちはふたゝび合戦更に止事なし是併て天下を

棄られしは天理にて天下を治めらるゝの道遠ひ給ふへし

ことは宋の代にもめでたく天道の理を知る者なくて天下へ押

廃れ合戦すきて戦はしまして万民を安穏に治る人なく

乞ひて戦ふによつて天道に叶ふ事なく政を取大臣諸又国を

治めし元仁義を以政をするによつて宋の代三百年に及んで

治りける元朝大明にて天道の理を知て天下を治るによつて

代々天下長久なりし世に天道を以て治ると云とも天子一人

無君にして係を不聞天道を唱ふ人は宋の代も元朝

あるまじき元朝も又大明に棄れける是は唐人の物語にて

聞しや又日本の昔を語る聞に神武天皇天照大神

と後を請給ふを御安穏に治る時は代々子孫に伝へ

天下泰平なる末代まで然るに天下を棄れける仁義を以

万民を治るといへとも因に是を致し天下を取る為にして

諸人を苦しめ給ひて主君を屈に取令又我家を広め主に叛

実朝は将軍を殺されて終に天下を失ひける以降天下を

元にて安時時政といふもの出て是の心を知て万民の欲を

うばはす諸人の為に心を尽す時に九代まで天下を保て子

孫までも栄けり其後問の世の末より君たる人奢りを極め

さしも治りし際に国を乱し天道の理をも失ひ仁義

の道を忘れ衣食の栄耀を尽し万民を悩まし法

人の苦みを知らずして一人の楽をなさしむるは一代二代にて

次第に秦漢の代よりハ文学文の教も怠り勝ちにて
面々主君に従ひ内には兇狼也の志を含む者多く世
出て居り故て天下を治め為す事の世の時ハ之れを
治るにハ文武の二を兼ね修る事難しされバ
漢の高祖の世を取り玉ひしハ武勇にて志の大なる故
下の能く従ふ事流水の下に就くが如く心を以て服す
居て天下を捕られ又文帝の代にも太宗皇帝仁義の徳
有らしめとして文武兼備に修る事古の聖人と似たり又
三代之上に武勇に威猛深き者にて下する者清を破る
後にも政の為にハ陰陽の如物なりて政の理あらハ茶
陽を教へ師道を定め其子孫に之伝へし天下にも人ハ
目前の国も山川を経絡しして接する處と云ふべき

其中に文武を容れ清し一き人の分を合ふ所を振て
いらしきハ枝葉の本を削らず葉を以て根を育る
金銀を飾らず沙石も破れざる内ハ能く須く天下の万
民を撫育する仏の示す別の義を明らかにし天地に富み
萬の金銀珠玉を天下の文武を志ん存ふて居よりも一
物にふれて万人を飢ゑず民の中にて君の為に歎く人の
為にせ心すべし天地の義をば道を守る如くし天子の位をゆる
さんや天下をしらず国を保つ人の身より志る是迄天下を
治めなバいつまでも人の知らぬ所なるを志るし
して家々の道の存するとのみ知りつきせぬ所なる
ゆゑ天下の文武の治め方を君の示として職の示
みえて然るべし万人共に一人楽しみ子孫栄へしの事

智恵の徳に余りし故に近衛帝ハ武をはなし玉ひき
夜々の怪を従て玉ふ芸を武門として是より武を
専らに信て名ハ万代残りて孫葉へり後白川の法皇
智恵なくして天理を不知信て天下を失ひ給ひし事
是て理を知て天下を修る時ハ栄へてる理を窺
て武を苦しむるものハうるものすくなし

異国と日本の事

一 唐の治を守るに堯舜禹王湯王文王武王成王康王
なとし天理を治め入て仁義を不節義を盡して天下
の万人を安穏に治むる時ハ四百年六百年あるひハ八百年
天下の乱治めうる大信なる時ハ万人極楽を好む万民
安穏の路をうるぞれて先祖の功を空し一朝にうしなふ

又の武王天下を治て武代ハ天下治るといへども乱不止三代に及て
周の文王ともろもろの心をしりて天下の為君の為に
心を尽しけるハ誠に文王なり治世を以て十四代治る
是て民の理を以て治る時ハ久安文にて民の理背て治る参
一代の内にうしなふ日本ニ三好松永信長秀吉抔といふ人武
勇ハ古今に勝ぬ大将なれ共子孫も長久ならざるハ
君臣共道ひとしからずして家臣に君を輝
私欲に任せり奢りを極めて万民を苦しめ悪しめにて
天に背き民に背き一代ならでうしなひけり天下の理を得ざるか
知て天下を治る事常にあらずしやうりやう人にもしれ
益もなく神儒仏の教へ何ものひて是で天下国家を
失ふかなし先釋迦仏ハ天竺の人也天竺の人の心

正ゟいずして国治らず釈迦佛さへ山中に入山
に篭り天竺の風俗を変して国を治ん方便に極楽
地獄といふ事を仮に立此世にて善をなせハ極楽往
悪をなせハ地獄へ落るなりと教へしとなり去れハ極楽地
獄ありといふも此世を治めん為之仮之所ハ猶語あり
国を治る法にも叶ふなり則経文なり悪人を減し
地獄極楽ありとも仏法此世ハ仮の宿後生こそ大事な
りとて妻子を捨て出家遁世する事大に過る事に
佛の心にも叶ハす又寺を建て神と祭れハ過る事を
済へき事あると云事を嫌ひして賎き者を貴する
事ゆへ又大きなる過ちなり民を苦めて寺を建る
事神佛の内證にも不叶様にして且つ叶ひ難き人を

神也誠に仏也なるゆへ此神仏の心ハ万民を安穏にさせ
ましまス然るに人民を困せて宮寺に金銀を捨るを嫌ひ
思ふ也また却て罰を当りなん神仏の心にハ叶ふへからす
極楽西方なれハ行らすして神佛の内證に叶ふなり
出家せす神をまつるにも及はす心を備ふへし又
達磨といふ人出家の心をなし佛をもなし神もなし
たるをもし死て後焼ハ灰埋ハ土と成ハ元の是
まてなしとをもふなれ共死して後をも去しと
捨りありて神仏の事を云ひ又家の内ハ万神の前
の付ものに五体備りて則寛之神と云ふ成
果あにして教へ申す其の哉常にいふ王道を作る
国政を念し親ゆへ縁あり日本も此法に従ひて祈を祝る

師匠とも極楽ハ心も形し何も空しきもの也と説けり
よりて武士長老に何をたづぬる者あらハ何と答へれし
経を読ミても聞へたるらしき事なきものなり読べからず
寺り然是ハ只日本の盗賊ハ出家なり文武且形な僧
何を頼ミ仏ハ忌ひ僧を宗ひ今経を書するもの聞へハ経
なきものなり一家の心を志しさせしる計り難き
僧也ふへたる人の心の為になすなり此教えて所なき
為きと申に於ふて又只書曲経を読儒者と云ル者
儒ハ人ハ日本に施て文字何やに読ミ候ハ異たる文字
法也一つに極之此故に今儒者の所説をくれハ人の為
入る様に升り極めもしへ身をよる役りて学文をするなり
学の人なり心立無為巧言令色にして人に諂ひ大名ヲ

なかりし円明極楽極楽の所説也一つなり心得よくし法人
悟りのする事にて此所説を学ぶ一人の心を以万人の
心を迷はするの者を説く人也所つまりや是円誠の理なり
其の妙所を得る人ハ君を堯舜のやうにして天下の
万民を救ふ事を親を孝をなして君を任して此ゆかれハ
子孫を不変に所に不忘儒法禅法の外のなきなれ
事を知らしぬやうにて理を説て此ゆへに釈迦の法也謂なく
理に近くよりて実に無経寂滅と説く出して前を大滅
と説て死しは何と云ふ事なき極楽を極楽とす禅法抔にて
此所又今の儒者ハ禅法を受取つて能く何を云ふる
形し天道も云ふ事なきに極楽を見ず法人達ふても見なき
之家も東山比白面白して仕とひしが既に上代末代と

いかにも人に教ゆるハ难し。然るに日本の上代ハ二千年に
及んで治まりたるに近代一代二代にて亡びる、何ゆへなる
それハ学文出来てけんより書物入て日本の学者も
唐と日本の理を聞くハ一里程の隔たりもしぬれ大唐ハ五里百里の
大なる遠き国にて二千年下ハ下を治めたる事にあらず物成
国の治めを皆唐人に合てる唐の理明らかなる物語前の
諸侯のやうに思ひ其書物をやすく見ましてる唐も其始末
ほる世も無物之親に孝行をするものとはなしと思ふ斗り見る
事を唐にて學ぶ人斗りにて思ひ記しまず然共ハうるを教
しても見るもの有し其中内心ハ打付之冬の日本の人の
心うるは是なり其ハ人臣を忘れハ天下之人臣を知る
上一人之道を不知に依てわすれや然ハ天下の治るへき理に叶ふ

又儒者の道にても君臣父子夫婦兄弟朋友此五つの名を語り
明らかにして人をそだて是より人と云ふなり。此五つハ臣下と君とは
是程君と忠義なるを斗をもつて忠を棄して大節に至るとも
一命を下にも尽し其心に依まずなり一生之間尊ぶ
ことを思ひくる教への道をは理に叶ふ人にいふ也
臣も依のあるらハ君臣にあり次父子ハ親に孝を尽すなる
是もかやうにハ只大方に思ふに依らしが家々ハ則親の体を
合うくるを知りすれ是天の理に叶ひて又天地
の間も天地のくしつ天にも地にも和合して万物生ずる成る
女ハ夫を天のことく戴き夫ハ女を深く思ひ恨みも無く
合ぬれハ家内和合して其風俗を天下に移る夫婦の
習所安く後生すも是にては氣力も無く侍る故也内済を

正直なりと申すとも心の伝へ文盲なる者ハ因ツて
驕り奢りかち邪欲深く大きに知恵なきことのみなり
必女の物言ひするやうにし是非なく用ゐたるより又よき友
得しくされハ我身の若気みがかざりし友ハ他人なるに
よりてかくしも傾きかさねてハ文を読し成るほど友を[illegible]
又凡人ハ年を重し年寄ハ久しを隠れかくし[illegible]
重する事なれハ是を偏に中なり此五つの内に[illegible]
守肝要なり何事も偏らず行を[illegible]此五つの
在を能く行ひ天下の聖人の[illegible]
礼し神を敬ひ儒者にハ此五つの道を行て天命を守るべし学
文、深く学びて此五つの[illegible]偏らぬなり天に叶ふ
心則天命[illegible]人間を生まれ来て人心を[illegible]

とのみ信へてゆり此人心を聖人とも云ひ人心と云ふの
心之此人心備時ハ天心多く天心備時ハ人心之ふ一念、
若し一身を思へば一念天に通じ一念思ふ事を云ひハ一念
天に通ず大学曰く君子ハ独を慎と有るも此事に独りて
いへも人も不知我思ふ一念なり一念の誠を行ふを慎むこと
独りを慎むべきこと肝要なり私欲の切らぬ様に天
理に叶ふ様にと慎むなり君の一念大事ハ慈悲を一念慈
悲の心を天より天下地より地[illegible]人の為
人ハ我身を守る天下を治むるなり君の一念を正しう
人を下の人に理やかに人の為ある[illegible]に
はしり右の五つの道を能く行ひ長らへ死てハ此心之
の天に帰り子孫を守る依て子孫長久なり五つの道を表

何ひとつ忠臣の礼と此世まて家の亡るのをなくれは此ん
後世の間に流こ南しきて天子臣下多難なれとの始ならむとと
しくし此所に五常の道を行ふ事を儒者の大事とすること
又先祖の心天子臣下にて居たりとして天と共にて子孫を守
此くて先祖の親を祭る事を大事とするなり是儀式の
祭るは神大夫を天とんや先祖の心天とあれは家人と道を
て孝忠の誠一身と成るや此誠は魚と水との離れし能はず
伝之ありて仕儀の心を失ふと云ふを儒者の心は有る物を
以ふ合ちなり日本は久安仕儀絶へし事間なるふとて
此後に入事多く不審かあるなし家業を失ふとく下の
久安ふ従ひ仕る事を今文一代二代ふ暫くは何るを
少なくも工夫あり後に入すまり是にまて天下国家の主人は

知をもとむる事なり文道の千万とも不有家に背くを
四馬の事の道をおもふ門を立つる武人似合ぬ事と思ひ
御ぎ義て問様を何の為にとも門を立る事も是人は千万者
曰家人を為家為まても君子若事を守る事随儀す
是人の不知所也此心天と通じなは家子孫必四馬の事を
守りて道を着つき立て門を立しる後にも主を守り是
をつくるを事を守りて此門を出入すべし然れ天の徳は無所
はいまなり此天理也此様と能者と心を掛るは
上は天子国司家を守りと守ると子孫長く栄えし候ふ
の事とも　邪欲私欲の心を何とかなる大人はなき故
候哉下様にも直近一代二代も必ず是ありし　扨て理の
元様天下様の二つのなかに中の元は先人おもふる内は主を

定めて行ふへし縦ひ有るを宝物と定ても以の外なる
事なり日本の物を行ひ唐を閉て似さる事を以て
渡しぬれハ唐に行ひもれ共師も悪敷によりて久敷我
も人も欲にひかれまよひ道を開かす然れと付るへし
都今の世の人心ハ恩をも不知情をもしらす殺して
多くをのミ好む計り事し而して人としてハ畜類なる
今の世を治るにハ仁義を計るをれハ治るする事の恩ミ
忘れて国を傾け又子ハ親に不孝をなし臣ハ背き悪人
ありハ知恵盛んにて武勇を以て押領し亡ほす也し吉
人あらハ学ひ見し吉人悪人一つに用ゆる時ハ悪ハ長し
安きをハ亡ふるといへとも今の世天道の理を守り我か身の
欲をも忘れて天下国家の為に尽くすへし智仁勇の三徳を

如斯して天下を治め行ひ後に万歳迄子孫長く栄ふへし

右七ヶ條ハ肝要ハ君を人をあはれみ利欲私欲深くして遊楽を好み
忠しして万人困窮する時ハ人の恨天に通し子孫必亡ふる
忠臣ん人の欲私を離れて理の天にしんを尽し天下の万民を
安穏に治る時ハ其徳天に通して子孫必長久也唐人ハ
異国の治ハ悉く天道の理を守る故異国の人に日本和
代より末代迄の事を数年問ひ行ひし然るに以て治る
付古今の善悪を考て自然当代の治めと如何に縁きの
んや少し志等あらん仕事を存せし深く筆を書付るや




H+K 2
GretagMacbeth™ ColorChecker Color Rendition Chart
15.01.2002